



連続立体交差化の構造工法を決定！「仮線高架」に！

川崎市は、これまで地域勉強会でも話し合いを進めてきたJR南武線連続立体交差事業（矢向駅～武蔵小杉駅間）の、構造工法を「仮線高架」と決め、11月16日の市議会まちづくり委員会で報告しました。市は地下直下など他の工法と比較し、①概算事業費が最も安価となる ②横浜市域を含めて尻手駅～武蔵小杉駅間にある13の踏切を全て除却できる ③移転が必要となる買収対象建物が約400戸と最も少ないなどを理由に採用工法を決めました。

市は、今回の構造工法決定を踏まえ、来年2～3月頃に新たな事業スケジュールを公表するとしています。

～地域勉強会の取組～

地域勉強会（第5回）を8月2日及び（第6回）を9月20日に開催しました。

勉強会では、沿線地域の現況と課題の整理を行い、高架化後の空間を活用してまちの回遊性を高める取組や、史跡や緑を活かした賑わいのある商店街の整備事例などについて、意見交換を行いました。

勉強会での意見等は、市がこれから策定を予定している「南武線沿線まちづくり方針」に反映されるよう取組を進めます。



※JR中央線 中央ラインモール構想

地域勉強会での主な意見

- ・高齢化が進展する中で、駅までのアクセス改善が必要
- ・鹿島田周辺にコミュニティ施設が不足しており、対応が必要
- ・高架下を活用して、まち全体の回遊性を高める取組が重要
- ・高架下の賃料を低減して、地元商店街の活性化につなげられないか

<商店街の整備事例>



※愛知県豊田市 桜町ほうだら会

